

# 日本のものづくり現場

―潮目は変わるか？―

東京大学大学院教授 藤本 隆宏

- \*賃金格差の変化こそ注目点
- \*野球型の米中、サッカー型の日本
- \*「現場」は「沈黙の臓器」である
- \*サービス業の「ものづくり魂」とは
- \*モジュラー化で窮地、日本のテレビ
- \*目先の収支で国内工場を閉めるな
- \*すり合わせ型に再び陽が射す
- \*異論を唱える人材を役員に加えよ
- \*製造業とサービス業は一体である
- \*自動車の複雑化とVWのサイエンス



**浅野** お待たせしました。それでは、開会いたします。（拍手）お待ちかね今日は藤本隆宏先生です。今日でこちらは三、四回目かと思いますが、いつもとてもいい講演をしていただいているんですけども、前回の読み直ししてみるところばらしい内容で、これはこのままでも本になると思っておりましたら、前回と前々回の講演を中心にした本が、新潮新書として間もなく出るといことです。経済倶楽部の講演会のレベルがよくわかります。

そういう質的な面だけでなく、藤本さんの講演は量もすごくて、前回の講演録で80ページに及んでいるんですね。ほかの講師の講演は40ページぐらいです。藤本さんは、早口でかつ長時間お話しになったということになります。

それから週刊東洋経済では自動車のカバーストーリーにした特集号が来週出ます。そこでは藤本さんのインタビューも載っているのですよ。しければご覧ください。今日はたっぷり伺いたいと思います。それでは、よろしくお願いいたします。（拍手）

**藤本** ご紹介にあずかりました藤本でございます。よろしくお願います。

確かに私は早口だと言われていますが、ゆっくりしゃべろうと思っっているんですけど、ゆっくりしゃべると、自分で前に何をしゃべったか忘れてしまうんですね。私も加齢で短期記憶が少し危なくなってきていますので（笑）それで早いということをご勘弁いただきたいと思っております。前回、べらべらと関係なくしゃべってしまった